

進路だより 淡 佐 浜

Vol.2

令和5年7月19日発行
福島県立原町高等学校進路指導部

7月7日に講義ライブを開催しました。参加者85名



「ディズニーランドを地理学で分析する」
茨城大学人文社会科学部 小原 規宏先生



「チタン／未来金属／生産コスト」
東北大学工学部 朱 鴻民先生



「データサイエンスとは」
東北学院大学情報学部 菅原 研先生

※参加生徒の感想は裏面に掲載

「自称進学校はなぜ厳しいのか」

『偏差値45からの大学の選び方』の作者である山内太地さんは、YouTubeでも進路情報を舌鋒鋭く発信している人物だ。この本の帯には「重要なのは第2志望の選び方」ともあり、また「受験の壁はデータデータで越えられる」ともあります。この本の152ページ以降には、もっと根幹的なことが書かれています。「…トップ進学校が自由なのは言われなくても勝手に勉強するからです。一方自称進学校のみなさんの場合は、コーチがついて厳しく指導してあげないと勉強しないということが前提になっている…だからやらされる勉強が多い。…だから校則が厳しいんですよ。そうははっきり言えば自己管理できないと思われるのです。」…さて、原高の生徒はどちらだろうか。(進路指導主事)

1学年を対象に外務省高校講座を開催しました。

7月6日(木)の総合的な探究の時間に、外務省副大臣秘書官の山田和花奈氏を講師に迎え、「外交という仕事」をテーマに講義をしていただきました。G7などの国際会議の話や、ウクライナロシア戦争はもとより、なぜテロリストが生まれるのか、なぜ日本はODAなど外国に援助をする必要があるのかなど国際問題について深く考えるきっかけとなる講義でした。生徒の皆さんの感想を裏面に掲載してあります。



進路ガイダンス第68号が発行されました！



進路ガイダンスが発行されました。進路編では、大学入試とは何か、そのスケジュールをはじめ、学校推薦型選抜や総合型選抜の手続きについてなど具体的な情報が盛りだくさんです。また、昨年度の指定校の情報、卒業した先輩たちの共通テストの得点状況なども知ることができます。合格を勝ち取った先輩が書いた合格体験記も参考になります。ぜひ、この夏熟読してください。

2024年度より英語検定が変わります！

英語の外部検定を受験しておく、学力向上につながるだけでなく、入試でも利用できます。高校生が受験しやすいのが英語検定ですが、2024年度より試験内容が変更になる予定です。大きな変更のみ記載します。

<準2級>

Writing：英作文問題を1題から2題に増加。

既存の「意見論述」に加え、「Eメール」の問題を出題。

<2級・準1級>

Writing：英作文問題を1題から2題に増加。

既存の「意見論述」に加え、「要約」問題を出題

今までの英検と比べると、Writingへの対策に時間をかけなければなりません。**今年度のうちに、1年生は準2級、2年生は2級取得を目標に受験計画を立てるとよいと思います。**

大学入試は、共通テストにしても個別試験にしても、受験日の決まった一発勝負が原則で、当日のコンディションに結果が影響される可能性があります。一方で、外部検定は在学中に複数回チャレンジできます。また、英語検定は、会場(学校)で1次試験を受験する従来型に加え、仙台会場でコンピュータを使って受験するS-CBTもあります。詳しくは、進路ガイダンス68号にも記載がありますので、英語検定についてぜひ一読してください。

講義ライブ感想より (抜粋)

茨城大学人文社会科学部 小原先生「ディズニーランドを地理学で分析する」

・ディズニーランドが人気なのは純粋に高いネームバリューのおかげなのかなと思っていたのですが、掘り下げてみると、細々としたところが客を呼ぶために工夫が凝らされていて驚きました。地元の人には意外とテーマパークには行かないと聞いたことがありましたが、でも、成人式など地域に密着した仕組みが多く、地域とのつながりを大切にするのは、集客の意味でも重要だと再認識できました。地理的な視点で見るためには現代社会の知識も必須であることがわかったので、今後新聞やニュースに目を通す習慣をつけたいです。

・移動の不便さ、土地の不安定さなどのマイナス面を超える非日常化というプラス面をディズニーランドは持っていることに初めて気づいた。土地などを地理的視点で考えている人は、誰のために、どこのために、を重視していることに感心した。講義について以前の地理学に対する考え方がガラッと変わり、頭を使って「なぜ」を考えるのがとても面白かった。今後は疑問に思った土地問題を頭を使って考えていきたい。

東北学院大学情報学部 菅原先生「データサイエンスって何だろう」

・データは理系・文系関係なく、そのデータによって必要な知識があることを知りました。また、データから「なぜそうなるのか」「どうすればよくなっていくか」など活用する力・データサイエンスが必要だと学ぶことができました。そして存在している膨大なデータをどう利用するか、予測するか、分析するか考えることが大切という、どの学問にも通じることを学べたと思います。講義を受ける中でも、文系・理系などではなく幅広い知識が必要で、それを持っていればさらに楽しめる学問だとも思いました。この学問に触れるのは初めてだったので新鮮でさらに興味を持ちました。

・データサイエンスという名前から数学ができる人や理系の人が向けだと思っていた。だけど、計算などができなくてもツールがカバーしてくれるし、大切な事はその計算にどんな意味を持つのかを知ることだとわかった。データサイエンスを支える技術では、コロナウイルスと比べると劣るけど半導体にもすごい技術があると思った。海底ケーブルを引くのは大変な作業だけどそのおかげで地震が起こることもわかるようになった。身近なものにもすごい技術が使われていることをこの講義で知ることができた。普段だったらできない学びができた。

東北大学工学部 朱先生「チタン／未来金属／生産コスト」

・鉄、アルミニウム、チタン、レアアースで、鉱石から純粋なものを取り出すのに還元するために電気分解が使われていてすごいと思った。金属は地球で重要なものだが、

チタンなど有用だけどまだ全然採掘されていなくて残っているから将来自分が関わる可能性もあるので、化学反応式を理解したり、性質を理解できるようになりたいと思った。

・自分は材料科学に興味を持っていて、大学でも学びたいと思っていたので、今回教授の話聞くことができたらさらに興味を持ちました。金属にもさまざまあり、ものによって性質が異なり、価値もそれぞれで、おもしろいと感じました。これからもっと材料科学が進歩していくと思いますが、自分も大学へ行き研究したいと強く感じました。今以上に材料に興味を持てるようなおもしろい話がきけて良かったです。

1年生対象 外務省高校講座 感想より (抜粋)

・とても勉強になった。講師の方の話が面白くてあっという間の1時間だった。本当に勉強になった。僕の人生が変わった気がする。外務省なんて何も知らなかったけど、この講義を受けて、外務省について強いあこがれと興味を持った。将来の職業の選択肢の1つに「外務省」という職業が増えた。

・テロリズムにも識字率が関係していると知ってとても驚きました。勉強ができる環境が整っていることが、国内の経済や不適切な労働環境に繋がっているのは容易に想像できますが、そこから生計を支えるためにテロリストになるというのは犯罪者を一概に絶対的な悪と断定できない理由になってしまうなと思います。そもそも生きていくのが大変な人を利用して犯罪に巻き込むのは非常に悪質だなと感じました。日本の協力で一連の悪循環が少しでも改善できるのならば世界平和、正義の実現に近づけるのかもしれない。また、日本の食料自給率の話も改めて聞くと衝撃的で現代において日本が単独で生きていくのは不可能だなと思います。

・今日の話聞いて、大学が最終目標ではなく、将来何をしたいかについて考えるとよいと聞いて、自分も今から考えなければと思いました。外務省の仕事は思っていたよりも幅広い分野の仕事をしていると知り興味を持ちました。お話いただいた英語の覚え方（Netflixなどで字幕のない外国映画を何度も見る）についてぜひやってみようと思いました。

・外務省とは何なのか、何を仕事にしているのかなど、自分たちが聞きたい質問を具体的に説明してくれたので面白かったです。山田先生が「未来の扉が開くなら、今、頑張ろうと思わない？」って言ったとき、高校時代頑張ったら、良い職業につけるし、今頑張ろうと思えました。